



皆さん、こんにちは！

皆さんは、その日着る洋服をどうやって決めていますか？選ぶときの気分やお天気、一日の予定などに合わせてでしょうか。

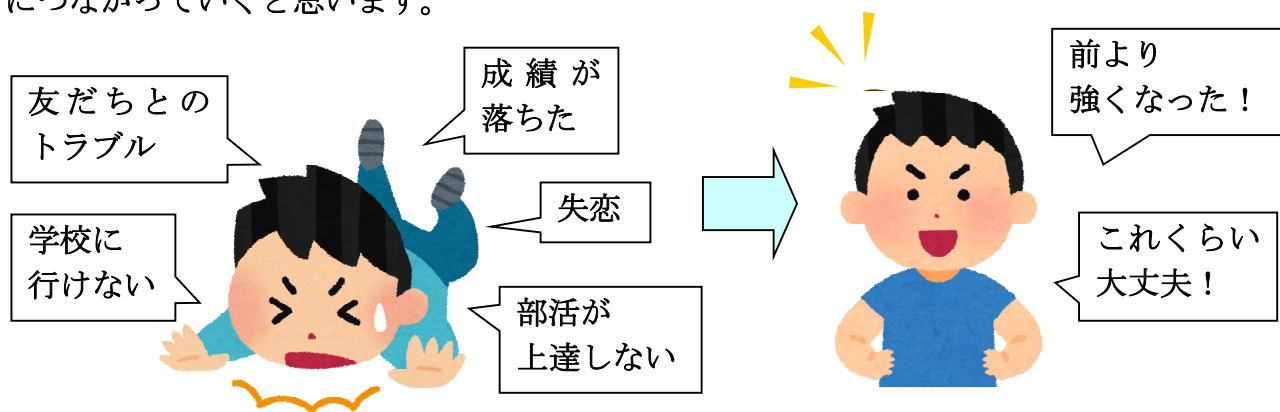
では、子どもたちはいかがですか？幼い頃は、親が決めたものをそのまま着ていますが、だんだん自分の色やデザインの好みが出てきて大変！なんてことも聞きます。

親としては、素材や着ていく場に合っているかどうか、などの視点でアドバイスができるといいですね。

1 レジリエンスを高めよう！

レジリエンスとは、失敗や逆境で心が折れても、自分の価値を信じて再び歩き出す、しなやかな強さのことです。このレジリエンスを高めるには、失敗の積み重ねが必要です。大人はすぐには手を出さず、子どもが自分の力で、起き上がるのをサポートしましょう。

ピンチを“自分の力”で乗り越えられたという経験こそが、本物の自信や、生き抜く力につながっていくと思います。



平穏な日、ニコニコで過ごせる日がずっと続けば良いけれど、

自分はダメだと落ち込むことだってある。

だけど、

自分の価値を信じて立ち上がることができれば、
しなやかな生きる力となる！

子どもの失敗やつまづきは、親も成長するときです。思いを受けとめているか、干渉しすぎていないか、じっくり悩みましょう。

2 「方言」は宝だ！



「てを つねっせ けもんに いたっけ」
「そげんがいやんな こどんに いっかせんね」
「なんとんしれん こめこっで きよでげんかどん すんな」
「とぜんね ところは あっねど」

文字にするとまるで暗号のような「西諸弁」。

戦前、日本の学校教育では“方言撲滅教育”が行われ、共通語をつかうことを強制させられた時代がありました。そのため、「方言は田舎言葉だ」という、悪いイメージができあがっていきました。しかし、今では方言を使った番組や商品も増えて、プラスの評価に変わっています。

普段、意識することもなく、周りにあふれている“西諸弁”。子どもたちが小林市を出て、他の地域で過ごすようになったとき、必ず思い出すことの一つでしょう。そんな時、自分の話す言葉に、誇りと愛着を持っていてくれたら嬉しいですね。

＊ 標準語になおしたもの

「手を つないで 買い物に 行っておいで」
「そんなに叱らないで 子どもに 教えなさい」
「つまらないことだ 小さなことで 兄弟げんかを するな」
「さびしい 所は 危ないよ」



(皆さん、話していることは分かって、自分で話すことは、なかなかないのでは?)

～ あとがき ～

『万能子育てロボットが安価で販売開始！そのロボットは、子どもが泣けば穏やかな声で歌ってくれる。不安なときはやさしく抱きしめてくれるし、おなかがすくと美味しい料理を作ってくれる。おまけに、お勉強はもちろん、しつけやマナー指導までしてくれる。親たちは、安心して子どもをロボットに任せ、仕事や自分の趣味に時間を使うことができ、ロボットはどんどん売れていき、子どもたちは良い子に育ってゆく・・・』

ずいぶん前に読んだお話で、細かいところまでは覚えていませんが、こんな内容だったと思います。日々、子育てに追われて、趣味も旅行もあきらめていた私は、うらやましいなあ～と感じていました。でも、このお話の結末は衝撃的で、ゾッとするものでした・・・とは言っても、どうなったかを説明することはできません。すっかり記憶が抜け落ちていて、ただただ、怖いなあという感情だけが残っているだけです。



いったいどんな結末だったのでしょうか。皆さんはどうなると思いますか？

また、こんなロボットが簡単に手に入るとしたら、買いますか？

★ 今月のオススメ絵本は、「てのひら」作：瀧村有子です。